

批判心理学の方法としてのテキストマイニング — 変数心理学に対するオルタナティブ —

いとう たけひこ

(和光大学)

1 メディア心理学における 批判心理学の立場の重要性

筆者の主要関心であるメディア・謀略に対する心理学では批判心理学の立場が重要である。日本心理学会批判心理学研究会第2回批判心理学シンポジウム「批判心理学とは何か：日本における可能性」が2011年3月4日明治学院大学で開かれた際に、筆者はのちに、いとう・大高(2011)として印刷された論文の内容を「批判心理学とメディアリテラシー：批判心理学の一分野としてのメディア・リテラシー心理学：DVD『911ボーイングを捜せ』と『9/11：真実への青写真』の視聴後の米国公式見解支持の減少現象を手がかりに」という表題で報告した。この内容は、百合草(2010)の説明による、ドイツの批判心理学における「知覚とは社会的に構成されたものである」ことを如実に現している一例と言えよう。加藤(2010)は、心理学が扱う「適応」の問題として、支配者にとって都合の良い「記憶」の構成がされてよいのか、メディアと調和した行動でいいのか、戦争などのオルタナティブとして別の状態にもなり得るものとしてあるのか、共有された「記憶」

により行為可能性・自由度が制限されていないか、という問題を提起した。いとう・大高(2011)からは、我々の、9.11事件の記憶(知覚)も社会的に構成されたものであることが明らかである。

このようなメディアが現実を構成することは、すでにメディアリテラシーの世界では前提のこととなっている。鈴木(2004)は、メディアの基本概念(キーコンセプト)を次の8つに定式化している。

- (1)メディアはすべて構成されている。
- (2)メディアは「現実」を構成する。
- (3)オーディエンスがメディアを解釈し、意味を作り出す。
- (4)メディアは商業的意味を持つ。
- (5)メディアはものの考え方(イデオロギー)や価値観を伝えている。
- (6)メディアは社会的・政治的意味をもつ。
- (7)メディアは独自の様式、芸術性、技法、きまり/約束事をもつ。
- (8)クリティカルにメディアを読むことは、創造性を高め、多様な形態でコミュニケーションをつくりだすことへとつながる。¹

1 これらの指摘は、媒体(メディア)としての科学論文の批判心理学的(=自覚的に批判的立場に立つ)読み方にも適用される。なぜなら、心理学的研究も社会的活動の一種であり、コミュニケーション活動に他ならないからである。間接的コミュニケーションあるいは媒体として心理学論文も含めた科学論文を読み解くためには、以下の8つの観点が必要である。：(1)科学論文はすべて構成されている。(2)科学論文は「現実」を構成する。(3)読者が科学論文を解釈し、意味を作り出す。(4)科学論文は商業的意味を持つ。(5)科学論文はものの考え方(イデオロギー)や価値観を伝えている。(6)科学論文は社会的・政治的意味をもつ。(7)科学論文は独自の様式、美学、技法、きまり/約束事をもつ。(8)クリティカルに科学論文を読むことは、創造性を高め、多様な形態でコミュニケーションをつくりだすことへとつながる。これらの観点を自覚的に持ちながら、研究活動の重要な構成要素として、論文リテラシー能力を高めることが、批判心理学の発展の為に重要な課題である。

例えば、21世紀に入り、やらせ・でっち上げで戦争への世論を操作・誘導した例として、いとう・大高(2011)では4つの事件を指摘し、9.11事件の集合的記憶が時の米国政府の公式見解に基づいて保持されていることを明らかにした。このような情報操作あるいは事実に基づかないプロパガンダによって、暴力についての集合的な記憶を共同体が共有し、それが世論の基盤となって、イラク戦争とアフガニスタン戦争の遂行に協力推進するような世論を高めてきたわけである。このことを考えると、マクロレベル(マスメディア)での騙されないためのメディア・リテラシー(池上, 2008)の向上のための教育が課題となり、そのようなプログラムを生成・実践・評価するための構成的な研究が必要となろう(プログラム評価については、安田・渡邊(2008)や安田(2011)やChinman, Wandersman, & Imm(2010)を参照のこと)。

2 批判心理学は態度であって研究方法は様々である

ここで、何が批判心理学であって何がそうでないかの基準は、研究に対しての態度であって、特定の研究方法に依拠しているという制約はないことをまず確認したい。Prilleltensky & Fox(1997)によれば、心理学は価値中立的ではなく特定の価値を担うと自覚し、心理学研究は社会に影響を及ぼしていると自覚し、社会正義を重んじ、弱者に不利益をもたらす現状の変革を目指すものである。現状を維持し強化しているか、変えようとしているか、言い換えると社会正義を促進するか不公正を助長するかを問題にする。また、背景的には、心理学者が行う諸活動による社会的影響が自覚されているかの問題がある。価値中立的と安易に仮定することなく自分が抱える価値を言明しているかが問題である。言い換えると批判心理学と

は、特定の学派や研究領域ではなく、心理学に取り組む姿勢であるといえる。また、Parker(2007/2011)によれば、心理学理論がイデオロギー的に作用し、社会的強者を利する現状を検討し、心理学理論・実践が文化的歴史的に構成される過程や主流心理学のイデオロギー的前提を検討し、心理学的言説が広く社会で作用する様態を研究することが批判心理学の眼目である。Parkerにおいては、批判心理学の方法は質的研究に限るものではなく量的研究も重要であるとしている。

3 批判心理学論文における質的研究への偏りの問題

しかし、Parker(2011)の批判心理学のハンドブック(論文集)にみられるように、たいていの批判心理学論文は質的記述からなっており、批判心理学では質的方法が優勢であることが見て取れる。批判心理学者が中心となっているBanister *et al.*(2008)でも研究法は質的研究に絞って解説している。しかし、量的な方法による批判心理学は成立しないのだろうか？

4 変数心理学者をどう味方につけるか

このような、質的研究偏向の現状では、量的方法(変数心理学)を中心的な方法として考えている大多数の心理学者を読者として獲得することは難しいのではないだろうか。百合草(2011)によれば、ドイツの批判心理学者ホルツカンプは、量的分析による心理学を「変数心理学」と呼んでいる。これは人間の心理を変数間の関係という観点から研究する態度で言い得て妙である²。これらの変数心理学からみると、批判心理学の論考は、その内容的評価とは別に、「数字も図表も無いような論文では心理学ではない」という形式的評価でもって心理学の範疇に入れる事自体に抵抗を示

2 これとほぼ同義に当たる表現としてCreswell(2003)は、「ポスト実証主義」という学派の名称を提案している。この立場では、重要なことばとして、決定論、還元主義、実証的観察と測定、理論の検証、の4つを挙げている。

すかもしれない。これに対して、たとえば、いとう・大高（2011）のような量的方法を用いた批判心理学的研究がある。そこでは、9.11事件の集合的記憶がマスメディアによって構成されているものであり、歴史的に解明すべき多くの疑惑が有るにもかかわらず、共通の物語によってその課題が封印されている問題点をデータに基づいて指摘している。

5 量的な方法による説得的な論文の産出が必要であるけれど

いとう・大高（2011）では、そのような疑惑を指摘したDVDの視聴効果を、事前事後の質問紙で得られた文字テキストを内容分析の手法で分類し、その変化を数量化して、統計的検定を行っている。このような量的方法による検証をおこなう研究も批判心理学の重要な構成素であると考えられる。しかし、仮説検証的な方法を批判心理学的におこなう上で、メディアや謀略の批判的研究をおこなうためには、重大な障壁が有る。それは、メディアにおける隠蔽と謀略における証拠隠滅の問題である。

6 メディア・謀略批判研究の困難点

非合法的で反倫理的な、謀略やメディアへの圧力では仕事の痕跡（証拠）を残さないのが良い仕

事の条件である。これは、仕事の精確さと痕跡の無さがイコールである染み抜き職人のように、ある人物や事実を消去・隠蔽しなくてはならないが、その消去・隠蔽の痕跡を残してしまつては、良い仕事をしたとは言えないのである。

かつての謀略事件は強圧的な言論弾圧を可能とする体制が背景にあった。この手の弾圧と情報操作は日本では、いわゆる大逆事件と知られている幸徳秋水事件において顕著である。石川啄木（1911）では、「僕は僕の全身の熱心を今この問題に傾けてゐる、『安楽（ウェルビーイング）を要求する人間の権利である』僕は今の一切の旧思想、旧制度に不満だ」という手紙を書いている³。この事件の背景には強権的・圧倒的なメディアの統制があった。被告の弁護士が友人だったため真相を知ることができた啄木の再生の決意がよく現れている⁴。なお、与謝野（1911）は、友人の国家権力による無実の死刑による死を「機械に挟まれて死にました」と、遠まわしにその非人間性を指摘しながら、悼んでいる⁵。

日本におけるフレームアップとメディア統制については、大逆（幸徳）事件（1910）からはるかに後、戦後の民主化に対する修正が加えられていき、諜報機関が暗躍する中で、下山事件（1949. 7. 6）、三鷹事件（1949. 7. 17）、松川事件（1949. 8. 17）などが次々と起こり、労働運動と共産党は打撃を受けていく（畠山、1976/2007）。認識や思考の枠組みである「フレーム」

3 中村（2009）のp.101にこの手紙の簡単な紹介がある。

4 啄木は、社会の幸福（ウェルビーイング）の状態をめざした。そのための過程（ウェルネス）を文学・評論・社会思想に求め実践したが、おしくもこの翌年死去している。ウェルビーイングは最近の心理学で良く用いられる用語だが、今から100年ほど前に啄木がこの言葉を社会変革との関連で使っていることに新鮮な感動を感じる。

5 「誠之助の死」 与謝野鐵幹（1911. 4. 1『三田文学』詩歌集『鳥と雨』大正四年（1915）刊に収録）

大石誠之助は死にました、
いい気味な、
機械に挟まれて死にました。
人の名前に誠之助は沢山ある、
然し、然し、
わたしの友達の誠之助は唯一人。
わたしはもうその誠之助に逢はれない、
なんの、構ふもんか、
機械に挟まれて死ぬやうな、

馬鹿な、大馬鹿な、
わたしの一人の友達の誠之助。

それでも誠之助は死にました、
おお、死にました。

日本人で無かつた誠之助、
立派な気がひの誠之助、
有ることか、無いことか、

神様を最初に無視した誠之助、
大逆無道の誠之助。

ほんにまあ、皆さん、いい気味な、
その誠之助は死にました。

誠之助と誠之助の一味が死んだので、
忠良な日本人は
之から気楽に寝られます。

(浜田, 2009)がメディアによって作られ拡大していくことは、現在にいたるまで続いているのである。これらの謀略の特徴は、その計画者・実行者が証拠を残さなければ残さないほど、「良い仕事」とみなされることである。また、歴史的出来事は1回性をもつ事象であり、実験心理学でいうところの「再現可能性」は全く期待できないのである。

ガンジーの7つの大罪⁶の実行に関わっている人にとっては、自分の汚い「仕事」の証拠を抹消するために大きな努力を払うに違いない。もみ消された証拠をいかに再現するのか。ここでは、仮説検証ではなく、アブダクション(仮説生成)という推論形式について考えてみたい。

7 アブダクション：帰納と演繹による仮説検証型の研究から仮説生成的研究へ

まず、結論的に言うと、批判心理学の研究においては、仮説生成的な推論が極めて重要である。批判心理学者であるStainton Rogers (2010)は、講演会で次のような主張を行った。

心理学における量的研究と質的研究の対立は、偽の問題に過ぎない。心理学は極めて幅広いディシプリンである。心理学者が問う広範なリサーチクエスションを解明するには、量的方法と質的方法の双方のアプローチが必要とされている。両者のどちらが優れているかが問題なのではなく、「探究の論理」こそが問われるべきである。研究活動は帰納、演繹と解釈あるいはアブダクションすなわち仮説生成によって営まれている。

アブダクションは仮説の検証ではなく、仮説の生成を目指すアプローチを提唱した哲学者チャールズ・パースが初めて用いた概念である。

今まさに起きている現実を解明するには大胆な冒険のように研究を行うことが大切である。ここではアブダクションが鍵となる。批判心理学者は研究対象とされた人々とコミュニティに敬意を表し、社会正義を目指している。アブダクションはそのために活用できる。

パースの論理学を解説した米盛(2007)によれば、「アブダクションとは仮説を形成する思考の方法を意味し、……アブダクションの訳語として『仮説形成法』、『仮説的推論』、あるいは『発想法』などの言葉が使われることもあります。しかし最近わが国でも『アブダクション』という呼び方がそのまま一般にも使われていて、この言葉が定着しつつあるようです。」(p.1)と述べ、演繹法や帰納法よりも仮説生成的な推論形式であるアブダクションこそ、もっともすぐれた拡張的あるいは発見的機能を有する推論であると特徴付けている。このようにパースの論理学でのアブダクションは、演繹法、帰納法といった伝統的な論理学の要件を満たさなくても、あるいはその手続きにのっとりなくとも、証拠不十分だが○○だ、論理に飛躍はあるが◎◎だ、といった、アバウトではあるが野心的な研究の展開方法を説明するものなのである。

このようなアブダクションの活用は、メディアによる事実隠蔽や政治的・イデオロギー的コントロールにも有効な手段となる。またインテリジェンスを理解する上では決定的な手法となる。なぜなら、メディアへの不法な介入や、インテリジェンスによる情報操作は、証拠が残らなければ残らないほど「良い仕事」をしていると言えるからである。

また、緊急課題にも仮説生成的な推論すなわちアブダクションは重要であると言える。例えば、児玉(2011)は7月27日の衆議院厚生労働委員

6 ガンジーの7つの大罪とは、1. 理念なき政治 Politics without Principles、2. 労働なき富 Wealth without Work、3. 良心なき快楽 Pleasure without Conscience、4. 人格なき学識 Knowledge without Character、5. 道徳なき商業 Commerce without Morality、6. 人間性なき科学 Science without Humanity、7. 献身なき祈り Worship without Sacrificeである。(Young India, 22-10-1925)

会で放射線の内部被ばくの危険性に関して次のように述べている。

……1991年に、最初ウクライナの学者が、甲状腺ガンが多発しているというときに、日本やアメリカの科学者は、[科学雑誌]ネイチャーに、「これは因果関係がわからない」ということを投稿しております。なぜそう言ったかという、1986年以前のデータが無いから、統計学的に有意だと言えないということです。しかし、統計学的に有意だということがわかったのは、先ほども長瀧先生からお話がありましたが、20年後です。20年後に何がわかったかというと、86年から起こってきたピークが消えたために、これは過去のデータがなくても因果関係がある、ということがエビデンスになった。所謂、ですから、疫学的な証明というのは、非常に難しく、全部の事例が終わるまで、大体証明できないです。ですから、今我々に求められている、子どもを守るという観点からは、全く違った方法が求められます。

このように、仮説検証によるエビデンスを得るまでに科学者として行動を起こさなければならないこともある。そのためには、アブダクティブな推論による科学的思考が必要だ。アブダクションの推論の手段として、テキストマイニングが有効であることは間違いない。なぜなら、以下に述べるように、テキストマイニングは大量の質的データを量的に分析する特徴をもつ手法であり、仮説生成的な研究に向いているからである。

8 テキストマイニングの特徴

テキストマイニングとは文字テキストという質

Table 1 質的研究と量的研究とテキストマイニングとの比較（小平ほか, 2007）

方法	データ	分析方法
量的研究	数値（量的データ）	量的分析（統計）
質的研究	文字（質的データ）	質的分析
データマイニング	数値（量的データ）	量的分析（統計）
テキストマイニング	文字（質的データ）	量的分析（統計）

的データを統計と多変量解析という量的分析方法によって研究する研究手法である（Table 1 参照）。

このように、テキストマイニングは質的方法と量的方法との両方の特徴をもつ。この特性を生かした研究への活用法が期待されるのである。とくにテキストマイニングの役割として、テキストマイニング中心の研究とともにミックス法⁷による補完的使用にも活用できる。また、探索的研究、仮説検証的研究、仮説生成的研究のいずれにも活用可能である。

藤井（2005：pp.13-28）はテキストマイニングと質的研究を論じるなかで、社会科学においてテキストの分析は重要であることを前提に、「テキストマイニングは質的研究の問題点である、信頼性・妥当性・エビデンスに基づくアカウンタビリティを解決する手法である」としている。KJ法の限界として、分類結果の信頼性の問題と、扱うデータ数の限界の2つの問題があるが、テキストマイニングは両者ともクリアしているという。さらに、テキストマイニングは「数量化」と「視覚化」が可能であるという特長を重視している。

那須川（2006）は、情報科学の立場から、表1.1にあるようにテキストマイニングを最も深いレベル3に位置づけ、「意味的概念の集まり」を分析する手法とし、自然言語の意味や関係を分析するものとして特徴付けている。

7 量的研究と質的研究とを併用した研究法をミックス法と呼ぶ。ミックス法に用いられる場合の、テキストマイニングという手法には、「コウモリ」的性格がある。質的方法との組み合わせでは量的方法としてミックス法が働き、逆に量的データ分析との組み合わせでは質的データの分析方法としてミックス法が成立するのである。いとう（2011）は「量的研究が優位な分野（心理学など）では質的方法とみなされ、質的研究が主流の分野（看護学など）では、しばしば量的方法とみなされる」と述べている。

表 1. 1 大量文書を活用する技術の比較

処理の 深さ	処理の 概要	機能 (用途)	技術的 要素	処理対象 (データ内容 表現形式)	自然言語 処理内容
レベル 1	検索	目を通す対象 を絞り込む	情報検索	文字列 単語列	単語の抽出 (語の原型・ 基本形への 置換など)
レベル 2	分類 整理	文書の振り分 け及び全体的 にどのような 内容が含まれ ているかの把 握	クラスタリング クラシファイケー ション	単語の集まり (Vector Space Model)	単語分布 状況の分析
レベル 3	分析 (知識発見)	面白い内容・ 役に立つ知見 を抽出	自然言語処理 データ・ マイニング 視覚化	意味的概念 の集まり	意味の分析 関係の分析

(那須川, 2006)

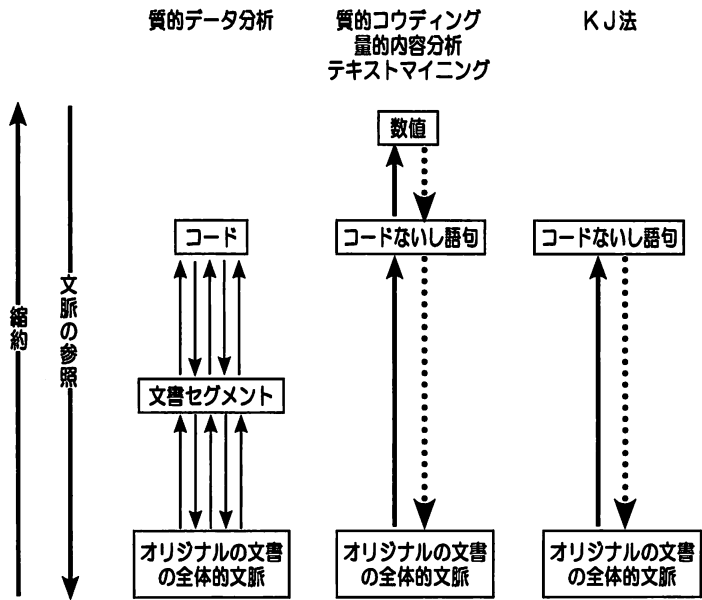


図 4. 4 質的データ分析と 4 つの技法の違い
文書で解説していく質的データ分析の場合には、データの縮約がおこなわれる一方でオリジナルの文脈への参照が何度となく繰り返されるのに対して、他の 4 種類の技法の場合には、縮約の手続が終わった後で元の文脈に立ち帰るようなことは滅多になされない。
(佐藤, 2008 : pp.52-58)

これに対して、質的研究者である佐藤（2008）は、KJ法と質的コーディングと、質的内容分析と、テキストマイニングの4つの技法は、質的データ分析とはデータの縮約の方法がちがうということを図4-4で説明している。また、図4-5においては、テキストマイニングは、単語間の関係性までは分析するが、文章全体の文脈まで射程に入れていないと、その限界を述べている。質的データ分析では、知見の収集とコードの再構成は行ったり来たりしなくては行けない。佐藤（2008：p.51）はこれを「木を見て森を見る、森を見て木を見る」あるいは「インタラクティブ性」と呼んでいる。このようなやりとりをテキストマイニングでは行わない。

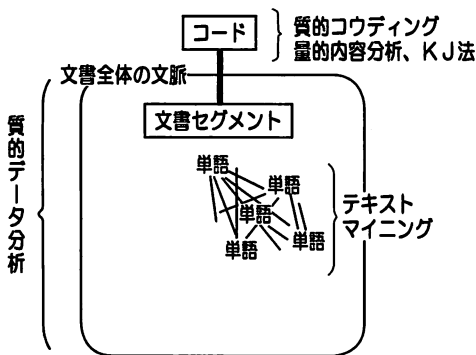


図4-5 さまざまな分析技法における基本的な分析単位
(佐藤, 2008: pp.52-58)

9 テキストマイニングによる 仮説生成(アブダクション)的研究

テキストマイニングの「マイニング」の意味は、何かを発掘することである。情報の山から知見を

発掘するためには、テキストのデータマイニングを行うテキストマイニングは極めて有効である。例えば、いとう・目黒（2010）は、朝日新聞と読売新聞の憲法記念日の社説に注目して、使われている単語の比較を行った。憲法改正推進派の読売新聞では「憲法改正」という単語が多く使われ、同じ意味でも護憲派の朝日新聞には「改憲」という略語が特徴的に使われていたことを明らかにした。このような意味内容と表現形式の対応関係について、それでは原発問題では、推進派ではより正式に「原子力発電所」という表現を好み、反対派は、省略形の「原発」という語を使うのではないかというアブダクティブな推論を導くことができよう。

10 テキストマイニングの利用法

テキストマイニング単独の研究あるいはテキストマイニング中心の研究としては、扱う対象が、大きく（１）情動的な文字資料と（２）物語り（ナラティブ）的な文字資料とに分かれる。情動的な文字資料の例としては、Ciniiなどの文献データベース、公式的なWebサイト、ガイドブック、ハンドブック等の情報中心の記事が対象になる。また、物語りの文字資料の例として、闘病記、感想文、ブログ、小説、体験談、DIPEX⁸やJPOP-VOICE⁹のような体験者などのインタビューサイトなどが挙げられる。

また、ミックス法的な利用¹⁰としては、まず質的研究との連携がある。質的心理学や文化人類学や質的研究中心の看護学研究においては、テ

8 健康と病いの語りの動画サイトである。<http://www.dipex-j.org/>

9 体験者、医療者からのメッセージの動画サイトである。<http://jpop-voice.jp/>

10 豊田（2011）は質的方法と量的方法の両方を用いる場合を、（１）混合研究法（ミックス法）、（２）質的データの数理的分析：テキストマイニングはこれに該当。他に、コンピュータによるエッセイの自動採点システムなど、（３）質的研究法の方法論（の枠組みの一部である理論的サンプリング）に数理的表現を与えようとするものの3つとしている。この発表では（３）の分野での新しい方法を提案している。豊田の計算法は本来グラウンデッド・セオリーにおける理論的飽和に相当するような数理的指標値として開発されたものである。その分析においては、「知見」（例えばKJ法で言えば1枚のカード）を分析単位としている。この計算法をテキストマイニングにも活用することが可能である。その際の分析単位は「単語」ということになろう。この方法により、テキストマイニングの対象となっているテキストが母集団をどれだけ代表しているかという推定値を得ることが期待される。もちろん、この発想は仮説検証型の研究だけでなく仮説生成的な研究においても重要である。この問題は稿を改めて議論したい。

キストマイニングは量的研究として、エスノグラフィやグラウンデッドセオリーなどによる患者・当事者の物語り（ナラティブ）の質的研究と連携することによりミックス法を実現できる。これには順次的方略と並列的方略が考えられる。順次的研究方略では、質的データ収集と分析の後に、テキストマイニングによる分析を行ない、解釈の段階で統合する。質的分析で仮説生成的に得られた仮説をテキストマイニングにより量的な裏付けをもって検証することができる。質的研究データの再分析としてのテキストマイニングである。例として精神障害者の居場所の研究（小平、未公刊）がある。これに対して、並列的利用として「並行的トライアンギュレーション」的な利用がある。テキストマイニング研究を質的研究と独立して研究し、並行する2つの方法で得た結果を分析の段階で統合する。質的研究とテキストマイニングの分析結果は対等のものとして統合される。質的研究者との共同研究プロジェクトの場合がこれに当たる。

次に、ミックス法における量的研究との連携を考えてみよう。心理学では（質的心理学・臨床心理学以外では）量的資料による量的分析が主流である。そのような量的研究と連携してテキストマイニングは次のように位置付く。

① 並行的入れ子方略：量的データと質的データ

を同時に収集する。質問紙の評定値と自由記述の結果のように、量的データ・量的分析が優位で支配的である。補足的に行なわれるテキストマイニングによる文字データ分析により、量的分析結果を裏付けたり、補足したり、矛盾点を指摘したりできる。

② 並行的トライアンギュレーション：テキストマイニング研究を量的研究と独立して研究する。並行する2つの方法で得た結果を分析の段階で統合する。量的研究とテキストマイニングの分析結果は対等のものとして統合される。量的研究者との共同研究プロジェクトである。

単独での利用あるいはミックス法での利用のいずれにせよ、テキストマイニングは、研究目的のタイプが、探索的、仮説生成的、仮説検証的のいずれの場合であっても、また研究の性格が個性記述的であっても、法則定立的であっても利用可能な手法である。

しかし、良いことばかりではない。テキストマイニングにはいくつかの限界があることをこれまでの研究経験で感じてきている。その第一が意味論的限界である。テキストマイニングは文字データのデータマイニングであるので、文字に現れないものは分析不能である。これを筆者は『『水平社宣言』テキストのパラドックス』と呼んでいる。「水平社宣言」のテキスト¹¹は歴史的な部落差別

11 「水平社宣言」

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾らの爲の運動が、何等の有難い効果を齎らさなかった事實は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されてゐた罰であったのだ。そしてこれ等の人間を勵むかの如き運動は、かえって多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴望者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり、男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮を剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代償として、暖かい人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荆冠を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によって、祖先を辱め、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勵む事が何であるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。

水平社は、かくして生れた。人の世に熱あれ、人間に光りあれ。

綱領

- 一、特殊部落民は部落民自身の行動によって絶対の解放を期す
- 一、吾々特殊部落民は絶対に經濟の自由と職業の自由を社会に要求し以て獲得を期す
- 一、吾等は人間性の原理に覺醒し人類最高の完成に向つて突進す

大正十一年三月三日 全國水平社創立大會

批判の声明であるが、「差別」「偏見」の文字はそのテキストの中には無い。すなわち、具体物としての現象（＝単語）がないからといって、本質が存在しないということではないのである。また、テキストマイニングの開発の現段階では、「行間を読む」事ができない。文と文のつながり方を含む、いわゆる談話文法的な分析が不得意なのである。

さらには、語用論的限界がある。当てこすり、反語、皮肉、など状況的な意味や言外の意味を解析するのも不得意である。つまり話者の意図や発話の機能を読み取ることが、現段階では困難である。これらの欠点を補うためには、意味的世界を探る質的分析との共同によるミックス法を用いることが必要であると思う。

11 本論文のまとめ

メディア・謀略についての心理学では批判心理学の立場が重要である。批判心理学は態度であって方法に制約はない。しかし、批判心理学の最新のハンドブック（Parker, 2011）の各章にみられるように、たいていの批判心理学論文は質的研究からなっている。図表付き論文は少ない。しかしそれでは量的方法（変数心理学）に立つ心理学者を読者として獲得することは難しい。量的な方法による説得的な論文生成が必要である。メディアや謀略の批判的研究は、“証拠隠滅”という重大な障壁によって阻まれている。非合法的で反倫理的な、謀略やメディアへの圧力では仕事の痕跡（証拠）を残さないのが良い仕事の条件である。したがって批判心理学論文は、仮説生成的な論文生成が必要である。そのための手段として、テキストマイニングが有効である。テキストマイニングは質的データを量的分析する手法であり、アブダクション的推論を用いた仮説生成的な研究に向いている。ミックス法的な利用として、順次的方略と並列的方略による質的研究者との連携により力を発揮する可能性がある。

浜谷（2011）は、実践的な研究においては研究

成果の蓄積により「開かれていて書き換え可能である」知見が増えていくことが重要であると言っている。この提言は、アブダクティブな推論の重要性を指摘している。メディア分析をはじめとする批判心理学の諸問題の解明にとっても、仮説生成的研究が重要である。そのためには、ミックス法とトライアンギュレーションに寄与するテキストマイニングの果たす役割は今後ますます大きくなっていくと考える。

【文献】

- Banister, P., Burman, E., Parker, I., Taylor, M., & Tindall, C. (1997). *Qualitative methods in psychology: A research guide*. Open University Press. P. バニスター、E. パーマン、I. パーカー、M. テイラー 五十嵐靖博、河野哲也監訳；田辺 肇、金丸隆太 訳（2008）. 質的心理学研究法入門：リフレキシビティの視点 新曜社
- Chinman, M., Wandersman, A., & Imm, P. S. 井上孝代・伊藤武彦（監訳）池田 満・池田琴恵（訳）（2010）. プログラムを成功に導くGTOの10ステップ：計画・実施・評価のための方法とツール 風間書房
- Creswell, J. W. (2003). *Research design: Qualitative, quantitative, and mixed methods approaches (2nd ed.)*. Sage. 操 華子、森岡 崇訳（2007）. 研究デザイン：質的・量的・そしてミックス法 日本看護協会出版会
- Creswell, J.W., & Clark, V. L. P. (2007). *Designing and conducting mixed method research*. Thousand Oaks, CA: Sage. 大谷順子 訳（2010）. 人間科学のための混合研究法：質的・量的のアプローチをつなぐ研究デザイン 北大路書房
- 遠藤利彦（2002）. 問いを発することと確かめること：心理学の方法論をめぐる一試論・私論 下山晴彦・子安増生（編）心理医学のあたらしいかたち：方法への意識 誠信書房 Pp. 38-72.
- 藤井美和（2005）. テキストマイニングと質的研究 藤井美和・小杉孝司・李政元（編）福祉・心理・看護のテキストマイニング入門 中央法規 Pp. 13-28.
- 浜田寿美男（2009）. 私と他者と語りの世界：精神の生態学へ向けて ミネルヴァ書房

- 浜谷直人 (2011). 質の高い実践論文における「実証」するとは? 日本教育心理学会 第53回総会発表論文集, 7. および当日配布資料
- 畠山清行 (1976/2007). 何も知らなかった日本人: 戦後謀略事件の真相 祥伝社文庫
- 平城弘通 (2010). 日米秘密情報機関「影の軍隊」ムサシ機関長の告白 講談社
- 五十嵐靖博 (2010). 批判心理学の現代的視座: その現状と意義 日本心理学会大会発表論文集, WS(13).
- 五十嵐靖博 (2011). 現代批判心理学運動の歴史的位置と日本における可能性 第2回批判心理学シンポジウム 「批判心理学とは何か: 日本における可能性」発表資料(未公開)
- 池上彰 (2008). 池上彰のメディア・リテラシー入門 オクムラ書店
- 井上孝代・いとうたけひこ (2011). ミックス法としてのPAC分析: テキストマイニングによる現状の展望、および今後の課題 内藤哲雄・井上孝代・いとうたけひこ・岸太一(編) PAC分析研究・実践集2 ナカニシヤ出版 Pp. 139-156.
- 石川啄木 (1911). 瀬川深宛書簡 石川啄木全集 第7巻: 書簡 筑摩書房 Pp. 322-326.
- 伊藤武彦 (2008). コミュニティ支援のために: 全校参加型学校支援のMEASURE法と教育モジュールの効楽安近短モデルの検討を中心に 和光大学現代人間学部紀要, 1, 73-87.
- いとうたけひこ (2011). ミックス法のツールとしてのテキストマイニング: 9.11事件の集合的記憶とその変容をどうとらえるか? 日本行動計量学会第39回大会発表論文集, 247-250.
- いとうたけひこ・目黒健太 (2010). 朝日新聞と読売新聞の憲法記念日の社説のテキストマイニング 日本行動計量学会第38回大会抄録集, 294-297.
- いとうたけひこ・大高庸平 (2011). 『911ボーイングを捜せ』と『9/11: 真実への青写真』の視聴前から視聴後への米国政府公式見解への支持の減少はなぜおこったか?: テキストマイニングを活用したメディア・リテラシーの検討 心理科学, 31(2), 38-49.
- 加藤弘通 (2010) 批判心理学の現代的視座: その現状と意義 日本心理学会大会発表論文集, WS(13).
- 児玉龍彦 (2011). 衆議院 厚生労働省委員会での冒頭意見陳述(7月27日) <http://ameblo.jp/chihoointokyo/entry-10968425899.html> 2011年8月5日取得。(のちに、児玉龍彦 (2011). 内部被曝の真実 幻冬舎として出版されている。)
- 小平朋江・伊藤武彦・松上伸丈・佐々木彩 (2007). テキストマイニングによるビデオ教材の分析: 精神障害者への偏見低減教育のアカウンタビリティ向上をめざして マクロ・カウンセリング研究, 6, 16-31.
- 中村文雄 (2009). 大逆事件と知識人: 無罪の構図 論創社
- 那須川哲哉 (2006). テキストマイニングを使う技術/作る技術: 基礎技術と適用事例から導く本質と活用法 東京電機大学出版局
- 大野達三 (1965/2008). アメリカから来たスパイたち 祥伝社文庫
- Parker, I. (2007/2011). Critical psychology: What it is and what it is not. In I. Parker (Ed.) *Critical Psychology Vol.1* Pp. 1-16. Routledge.
- Parker, I. (Ed.) (2011). *Critical Psychology Vol.1-4*. Routledge.
- Prilleltensky & Fox (1997). Introducing critical psychology: Values, assumptions and the status quo. In Fox & Prilleltensky (Eds.) *Critical Psychology: An introduction*. London: Sage.
- 佐藤郁哉 (1992/2006). フィールドワーク: 書を持って街へ出よう、新曜社
- 佐藤郁哉 (2008). 質的データ分析法: 原理・方法・実践 新曜社
- 佐藤達哉 (2002). モードII・現場心理学・質的研究: 心理学にとっての起爆力 下山晴彦・子安増生(編) 心理学のあたらしいかたち: 方法への意識 誠信書房 Pp.173-212.
- 下山晴彦 (2002). 心理学の新しいかたちを探る 下山晴彦・子安増生(編) 心理学のあたらしいかたち: 方法への意識 誠信書房 Pp.1-37.
- Stainton Rogers, W. (2010). アブダクティブ心理学: 質的研究と量的研究の境界を超えて 明治学院大学大学院心理学研究科 主催 日本質的心理学会 共催 講演会発表資料 2010年4月27日 (未公開)
- 鈴木みどり (2004). Study Guide メディア・リテラシー入

門編：新版 リベルタ出版

鈴木郁子・和田真雄・村上隆（2005）. KJ法および多重対応分析を用いた自由記述型応答の数量化 名古屋大学大学院教育発達科学研究紀要 心理発達科学, 52, 135-152.

豊田秀樹（2011）. 質的研究の理論的サンプリングにおける理論的飽和度 日本教育心理学会 第53回総会自主企画（未公開資料）

安田節之（2011）. プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために 新曜社

安田節之・渡邊直登（2008）. プログラム評価の方法 新曜社

米盛裕二（2007）. アブダクション：仮説と発見の論理 勁草書房

与謝野鐵幹（1911）. 誠之助の死 三田文学（詩歌集『鳥と雨』大正四年（1915）刊に収録）

百合草禎二（2010）. 批判心理学の現代的視座：その現状と意義 日本心理学会大会発表論文集, WS(13).

百合草禎二（2011）. ホルツカンブとドイツ批判心理学 第2回批判心理学シンポジウム「批判心理学とは何か：日本における可能性」発表資料（未公開）

全国水平社（1922）. 水平社宣言（部落解放同盟東京都連合会 http://www.asahi-net.or.jp/~mg5s-hsgw/siryou/kiso/suiheisya_sengen.htmlより 2011年3月26日取得）

（2011年7月15日受稿、2011年8月5日受理）

Textmining as a Method for Critical Psychology: An Alternative to Variable Psychology

Takehiko ITO
(Wako University)